

家庭科 2年		家庭基礎		年間授業計画 (シラバス)		
科目名	家庭基礎	対象	全	コース	単位数	2 単位
教科書	家庭基礎 気づく力 築く未来			出版社	実教出版	
副教材	生活学 Navi 資料+成分表 2023 (実教出版)					

1 学習の到達目標

- ① 各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯を見通した生き方を考えられるようになる。
- ② 家族・家庭の機能、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。
- ③ 生活に必要なお金にはどのようなものがあるか理解し、将来を見通した家計管理ができるようになる。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントへの取り組み ・定期考査 ・学習課題の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントへの取り組み ・定期考査 ・学習活動への姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントへの取り組み ・実習への姿勢 ・提出課題の完成度 ・学習課題の提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に取り組む態度＝1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	・ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらい，授業の概要，評価方法(単位認定)を理解する。 ・「家庭基礎」を学ぶ意義を理解する。 	○	○		1
	1章 これからの人生について 考えてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期に果たすべき発達課題について理解する。 	○	○	○	10
	2章 自分らしい生き方と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解する。 	○	○	○	
5	①自立と共生 ②ライフキャリア ③共に生きる家族 ④家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を支える労働の特徴を理解し，ワーク・ライフ・バランスについて考える。 	○	○	○	
6	7章 衣生活をつくる ・被服実習	<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた生活の工夫を知る。 ・日本の伝統的な衣文化を知る。 ・布を用いた被服実習を通して，裁縫の基本技術を身につける。 	○	○	○	3
	6章 食生活をつくる ①日本の食文化の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活に関心を持ち，食事バランスのよい食事摂取の重要性を理解する。 	○	○	○	7
	②私たちの食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活を振り返り，食生活の変化や課題について知り，良い食生活の実践に役立てる。 	○	○	○	
7	③栄養と食品のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類とはたらきを学習し，各栄養素を多く含む食品の特徴を理解する。 	○	○	○	
	【1学期期末考査】					
9	6章 食生活をつくる ④食品の選び方と安全 ⑤食事の計画と調理 ⑥これからの食生活を 考える	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食事摂取基準，食品群別摂取量のめやすを理解し，バランスのとれた食生活ができるようになる。 ・4つの食品群による摂取量のめやすを理解する。 	○	○	○	8
	3章 子どもとかかわる ①子どもとは	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育つ力と発達段階を理解する。 	○	○	○	9
	②子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取りまく社会変化の現状について理解する。 	○	○	○	
	③子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉の理念を理解し，子育て支援の現状を学ぶ。 	○	○	○	
10	④子どもをはぐくむ ⑤子どものための 社会福祉					

	4章 高齢者とかかわる					8
11	①高齢社会に生きる ②高齢者を知る ③高齢者の自立を支える ④高齢社会を支える しくみ	・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 ・高齢者を支える制度と課題を考える。	○	○	○	
12	5章 社会とかかわる	・社会保障制度の必要性とその仕組みについて認識し、それぞれの範囲について理解する。 ・ノーマライゼーションの実現のために必要な実践的な態度を身につける。	○	○	○	
	【2学期期末考査】					
1	8章 住生活をつくる					5
	①人間と住まい ②住まいの文化 ③住まいを計画する	・住居の機能や間取りについて理解する。 ・住居の空間の構成を理解する。 ・住居を借りる際に必要な情報の収集や費用について理解する。	○	○	○	
2	9章 消費行動を考える					7
	①消費行動と意思決定 ②消費生活の現状と課題 ③消費者の権利と責任 ④ライフスタイルと環境	・契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断をできるようにする。 ・大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。 ・経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。	○	○	○	
	10章 経済的に自立する	・生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージ全体を見通した家計管理をできるようにする。 ・家計から見えてくる社会の仕組みを理解する。	○	○	○	
3	1章 これからの人生に ついて考えてみよう	・自分の目指すライフスタイルを踏まえ、高校卒業後の生活設計を立てる。	○	○	○	2
	【学年末考査】					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。